

総務委員会

■報告概要■
10月18日～19日
…和歌山県日高川町役場・日高川町立施設
平成25年1月16日
…群馬県太田市役所
・おおた太陽光発電所

行政視察

包括委託で年間コスト減 (和歌山県日高川町)

財政の健全化とサービスの向上。これを同時に行うことができるのか。また実施しているところがあるのか。財政状況が年々厳しくなる羽村市にあつて、この命題は重要です。羽村市でも財政健全化計画を策定し、切れ目なく取り組んできています。指定管理者制度の活用もその一つです。



▲日高川町長が自ら説明



▲指定管理者が運営するかわべ天文公園のプラネタリウムを見学



▲かわべ天文公園の天文台の外観

これまで行政が担ってきた事業を、民間が主体的に参画して成果を上げようとする、指定管理者制度。これをさらに一歩進めて、包括委託による年間コスト削減効果を目指す自治体を視察してきました。和歌山県の日高川町です。

間あまり日高川町をアピール。その真剣さが伝わってきました。当初、財団法人日高川町ふるさと振興公社が運営していた宿泊施設や温泉施設など観光部門の11施設を、平成23年度から民間会社が運営。働いていた職員はそのまま民間会社の社員となり、そこで民間企業としての再教育を受け、サービス向上を図っていく。その結果、初年度は計画を上回る業績を上げていました。

その接客態度は大変好感の持てるものでした。公社から民間へと移ったことに対して、そこで働く社員は自らの意識改革があったと語っていました。今回視察したこの事業も始まったばかりです。これから様々検証していく必要があると思いますが、羽村市でも、包括委託という新たな取り組みを視野に入れた行政運営を検討してもよいのではと感じました。

人口の3%が外国人の街の 多文化共生事業 (群馬県太田市)

太田市では、外国人登録者数は、現在7千333人、人口の3.3%を占めています。ブラジル・フィリピン人をはじめ、様々な外国人が製造業の企業の技術者

等として市内で働いているという点で羽村市と共通しています。

市役所には外国人市民相談窓口が設置されていて、ポルトガル語・スペイン語・中国語・英語での相談に応じ、相談件数は、ここ数年は年間4千件を超えています。日本語教室も、ボランティア団体が主体となり、週3回開いていて、それぞれの教室で、100人から300人の外国人が受講しています。

また、外国人市民との懇談会や国際ふれあいパーティー、外国人料理教室、国際交流広場等を通じて、積極的に日本人との交流を図っていました。市の情報については、毎月1回「インフォルマ」を発行し、ポルトガル語・スペイン語・英語による情報提供に加えて、防災マップ等を配布し、在住外国人が市民とともに安心して暮らせるまちづくりを進めています。

教育の分野では、平成23年4月1日調査時で、市内の小学校に286人、中学校に138人の外国人が通学しています。他にブラジル人学校が3校あり、うち2校は政府の認可校となっています。外国人の定住化が進む中で、外国人に対するスクールカウンセラーの設置などが急務だと感じました。また、太田市は外国人集住都市会議にも参加していますが、費用対効果の点で、今後見直しが必要とのことでした。



▲広大な面積のおおた太陽光発電所の太陽光パネル



▲太陽光パネルの説明を受けながら見学



▲太田市役所の外国人市民相談窓口

賃貸借契約で事業展開 おおた太陽光発電所 (群馬県太田市)

群馬県太田市は、太陽光発電の先進地であることを全国に向けて発信し、太陽光発電のさらなる導入と自然にやさしい都市を目指すことを目的に、平成24年12月6日『太陽光発電推進のまち おおた』都市宣言を行いました。羽村市と太田市は、災害時相互応援協定を結んでいます。昨年の北杜市に続き、友好都市のエネルギー施策を視察しました。

おおた太陽光発電所は、傾斜角度10度で1万560枚の太陽光パネルを敷き詰めました。東京ドームのグラウンドと同じ広さです。年間発電量は、約163万キロワット時で、約446世帯の年間電気使用量に相当します。石油消費削減量は37万10リットル分、CO2排出削減量は611トンに匹敵することです。7月から12月までの半年間の発電量は113万9千786キロワット時、売電額は4千787万1千12円となり、ともに予想を超える収益となつていくそうです。毎日の発電電力量、CO2削減量、売電金額は市役所玄関の大型モニターでも、またホームページでも随時公表されています。

太田市の太陽光発電事業の特徴は、賃貸借契約による事業展開にあります。リース料金の中に施設建設、機器リース、設備メンテナンス、維持管理、災害時対応などをすべて含んだ契約とし、発電電力を売電した金額で土地の購入費用を支払うというものです。今後年間5億円から10億円の純益が見込まれるとのことでした。市内には、777区画中553戸に太陽光発電システムが設置されたパルタウン城西の杜(NEDO)技術開発機構による太陽光発電団地)もあり、太陽光発電推進都市を実感しました。

経済委員会

行政視察

下高井戸商店街 (世田谷区)

「ふれあいの街」

京王線と東急世田谷線の接続駅・下高井戸は1日の乗降客約6万人。半径500mの商圏には2万人が住むという。踏切を挟み、幅5mほどの車両規制された道路に300店舗が軒を連ねる。北側は鮮魚、肉、惣菜、野菜が並ぶ食の街。南側にはコンビニや携帯ショップ、ファッションストア。その先には小・中・高校、大学という文教地区でもある。クリニック、整骨院、調剤薬局まで並ぶ一角もあり、生活に必要なものはほぼ揃っている。大型スーパーも存在するが、個店のにぎわいは「ふれあい」があるからだろう。朝10時

お客のたまり場

「しもたかステーション」

取りまとめる下高井戸商店街振興組合は、商店と共に地域の生活を支える。業種別に店の特徴を紹介した「店舗マップ」を制作し、プレミアムつきの「スタンプカード」も発行。買い物客が休息できる「しもたかステーション」を開設し、ベビーベッドやトイレを設置。買い物客を預かり家まで届ける「手ぶらサービス」も行う。都補助金を受けた「宅配サービス」は乳児を抱える母親に重宝がられている。商店街の活性化が地域を元気にする好例であり、羽村でも参考になるだろう。課題は京王線の高架、地下化整備に向けた駅前再

行政視察

お客様目線で改革 戸越銀座商店街 (品川区)

全国に「〇〇銀座」と名が付く商店街があります。しかし、全国で最初に「銀座」を冠した銀座以外の商店街は、今回視察をした戸越銀座商店街です。戸越銀座商店街は、JR大崎駅から徒歩15分。400店舗、全長1.3kmの規模を持っています。歴史あるこの商店街でも、バブル崩壊後、売り上げは縮小、後継者不足で頭を悩ませる店舗が増えて

行政視察

都内唯一の自動車工場 日野自動車株式会社 (羽村市)

日野自動車羽村工場は昭和38年より操業され、昭和41年には日野自動車とトヨタ自動車が業務提携をしたことにより「HINO」「TOYOTA」両ブランドの車両を生産しています。全国の日野自動車工場の中でも羽村工場は大きく、敷地面積は羽村市全体の約10分の1あり、従業員数は現在約4千300人、たくさんの方が働いています。市内には社員寮もあり、まさに職住近接の街として羽村の発展に欠かせない企業と言えるでしょう。



▲日野自動車で説明を受ける

きました。そこで商店街は、「お客様目線で」様々な改革に着手しました。

- ① 商店街主催のイベントを見直し、毎月フリーマーケットを開催する。
- ② 60歳以上にはシルバークードを発行し、特別なサービスが受けられる。
- ③ 「ここに来なければ買えないもの」を作ろうと、「とごしぎんざブランド」としてギフト用の商品開発を行う。
- ④ 商店街ホームページでは、お買

こうした努力の結果、まるで商店街が一つの観光地のような注目を浴び、地元だけでなく、周辺からも多くの集客を得るに至っています。

行政視察

遊具のパイオニア 日都産業株式会社 (羽村市)

昭和40年以降、多くの企業がここ羽村市に移転してきました。市の発展、企業の成長とともに、職住近接の街として栄え、現在に至っています。経済委員会では、発展を続ける市内企業を視察することで、景気の動向や雇用等の状況を学びました。

多くある企業の中で、遊具のパイオニアとして発展を続ける日都産業では、公園遊具や健康遊具を製造。公園遊具では、誰もが遊んだことがあるものばかり。全国シェアも高く、グッドデザイン賞も何点か受賞していて社員のやる

締結し、災害時に飲料水(地下水)や10トン給水車、一時避難場所等を地域住民に提供していた。ただ、社会貢献活動も積極的に進んでいる企業です。業績は、東日本大震災やタイの洪水等の影響があり一時不振な時もありましたが、現在は回復傾向にあるようです。日野自動車をはじめとする市内で操業する企業があつたから、羽村の今日までの発展があると言ってもいいのではないのでしょうか。今後も職住近接の街として市内企業を守っていくことも重要だと考えます。

気と自信を感じました。一番大事な安全面に関しても厳しくチェックされていました。

また最近が高齢化に伴い、健康遊具の需要が伸びているとの事。羽村市にも日都産業の遊具が富士見公園等に設置されています。今後メンテナンスを含め、新規設置が望まれている所です。先日、産業祭でも新型の遊具を用意してくれ、多くの子ども達が楽しんでくれたのが印象的でした。

今回の視察では、自治体が民間とのつながりを密にすることで市民が欲しているサービスが提供できるのではないか、そうすることで市も企業ももっと発展していけるのではないかと感じました。



▲昼間もにぎわう戸越銀座商店街



▲下高井戸商店街で好評「てぶら便」▲



▲日都産業で製品を手にとってみる



▲下高井戸商店街を見学



▲しもたかステーションの掲示板には商店街の情報が所狭しと貼られている